

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0866  
 住所 川崎市川崎区水江町5番地1  
 氏名 JFEプラリソース株式会社  
 代表取締役社長 田村 望

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEプラリソース株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町5番地1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	R	サービス業 (他に分類されないもの)
	中分類	88	廃棄物処理業
主たる事業 の内容	容器包装プラスチックの再商品化リサイクル		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	6,103	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO <sub>2</sub>

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度～平成30年度 (報告年度 平成30年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 16,371 (調) 16,075 t-CO <sub>2</sub>	(実) 16,221 (調) 16,045 t-CO <sub>2</sub>	(実) 16,014 (調) 15,910 t-CO <sub>2</sub>	(実) 15,249 (調) 15,112 t-CO <sub>2</sub>	(実) 15,880 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 0.9 % (調) 0.2 %	(実) 2.2 % (調) 1.0 %	(実) 6.9 % (調) 6.0 %	(実) 3.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	原料ベール投入量		単位	t-CO <sub>2</sub> /トン	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	0.2510	0.2424	0.2366	0.2378	0.2435
削減率		3.4 %	5.7 %	5.3 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	処理量が2.6%増加したが、温室効果ガスは0.9%削減できた。原単位については3.4%削減できた。前年度更新した高効率ペレタイザーの本格運用化、操業の集中化やこまめな節電等の省エネ活動によるものである。
第2年度	処理量が基準年に対し3.8%増加したが、温室効果ガスは2.2%削減できた。原単位については5.7%削減できた。高効率ペレタイザーの運用比率アップ、工場内照明のLED化、操業の集中化やこまめな節電等の省エネ活動によるものである。
第3年度	処理量が基準年に対し1.7%減少したこともあり、温室効果ガスは6.9%削減できた。原単位については5.3%削減できた。3年間を通して、年々排出量の削減率は向上し、目標の3%を大きく上回る削減を達成した。高効率ペレタイザーの運用比率アップ、工場内および工場周り照明のLED化、操業の集中化やこまめな節電等の省エネ活動によるものである。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

<p>&lt;全社目標&gt; 2018年度に2015年度比で温室効果ガス3%削減する目標に対し、6.9%削減した。</p>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備</li> <li>○主要設備の保安全管理</li> <li>○事務所等の管理</li> <li>○フォークリフト等の燃料削減</li> </ul>
	第 1 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備                      全社環境管理組織を整備し、環境マネジメントシステム(EA 21)を導入、認証を取得している。更新審査を受け、適合の判定を得て更新した。</li> <li>○主要設備の保安全管理                      設定した主要設備の管理基準に従い、電流値・温度・圧力・能率等を適性に管理した。前年度ベレタイザーを効率の良いものに 1 基更新し、今年度運用を本格化した。</li> <li>○環境教育                      2009 年度版 EA 21 のガイドラインに従い、追加項目のグリーン購入を推進、全社員への周知として、年度目標値他を教育した。</li> <li>○原料・製品等の横持ちを減らし、フォークリフト等の燃料を削減した。</li> </ul>
	第 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備                      全社環境管理組織を整備し、環境マネジメントシステム(EA 21)を導入、認証を取得している。中間審査を受け、適合の判定を得た。今年度から ISO 14001 に取り組み、認証を取得した。EA 21 の活動は今年度で終了とした。</li> <li>○主要設備の保安全管理                      設定した主要設備の管理基準に従い、電流値・温度・圧力・能率等を適性に管理した。一昨年度更新した効率の良いベレタイザーの運用比率を今年度大きくアップさせた。</li> <li>○環境教育                      全社の品質環境方針を策定し、ISO 9001・ISO 14001 の品質環境教育を実施した。全社員への周知として、年度目標値他を教育した。</li> <li>○原料・製品等の横持ちを減らし、フォークリフト等の燃料を削減した。</li> </ul>
	第 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備                      全社環境管理組織を整備し、環境マネジメントシステム(ISO 14001)を導入、認証を取得している。中間審査を受け、適合の判定を得た。</li> <li>○主要設備の保安全管理                      設定した主要設備の管理基準に従い、電流値・温度・圧力・能率等を適性に管理した。2015 年度更新した効率の良いベレタイザーの運用比率を大きくアップさせた。</li> <li>○環境教育                      全社の品質環境方針を策定し、ISO 9001・ISO 14001 の品質環境教育を実施した。全社員への周知として、年度目標値他を教育した。</li> <li>○原料・製品等の横持ちを減らし、フォークリフト等の燃料を削減した。</li> </ul>
自動車等 (第 3 号該当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	

## (2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

## ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

導入を検討したが、製鉄所内という立地のため難しいと判断。  
グリーン電力証書を購入。

## イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
グリーン電力証書	バイオマス発電：水江原料化工場5,000kwh NFボード製造工場5,000kwh	平成27年 度	導入済

## ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の備値の保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考
バイオマス発電	グリーン電力証書：水江原料化工場5,000kwh NFボード製造工場5,000kwh	平成28年 度	購入済
バイオマス発電	グリーン電力証書：水江原料化工場5,000kwh NFボード製造工場5,000kwh	平成29年 度	購入済
バイオマス発電	グリーン電力証書：水江原料化工場5,000kwh NFボード製造工場5,000kwh	平成30年 度	購入済

4 他の方の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	<p>○低CO2川崎ブランドに選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード®」 年間のCO2削減量：535t-CO2</p> <p>○川崎メカニズム認証取得、認証された域外貢献量：290t-CO2</p> <p>○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO2削減 年間の廃プラ利用量：21.3千t CO2削減量：59.0千t-CO2</p> <p>○グリーン電力証書購入：10,000kwh CO2削減量：5.7t-CO2</p>
第1年度	<p>○低CO2川崎ブランドに選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード®」 年間のCO2削減量：310t-CO2</p> <p>○川崎メカニズム認証取得、認証された域外貢献量：170t-CO2</p> <p>○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO2削減 年間の廃プラ利用量：21.4千t CO2削減量：59.3千t-CO2</p> <p>○グリーン電力証書購入：10,000kwh CO2削減量：5.6t-CO2</p>
第2年度	<p>○低CO2川崎ブランドに選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード®」 年間のCO2削減量：183t-CO2</p> <p>○川崎メカニズム認証取得、認証された域外貢献量：99t-CO2</p> <p>○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO2削減 年間の廃プラ利用量19.4千t CO2削減量：53.9千t-CO2</p> <p>○グリーン電力証書購入：10,000kwh CO2削減量：5.3t-CO2</p>
第3年度	<p>○低CO2川崎ブランドに選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード®」 年間のCO2削減量：243t-CO2</p> <p>○川崎メカニズム認証取得、認証された域外貢献量：132t-CO2</p> <p>○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO2削減 年間の廃プラ利用量21.2千t CO2削減量：58.6千t-CO2</p> <p>○グリーン電力証書購入：10,000kwh CO2削減量：5.2t-CO2</p>

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	14,986	t-CO <sub>2</sub>
(調)	14,849	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)	0	

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
京浜事業部	川崎区水江町5番地1	8816	ごみ処分量	14,986 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--